

令和4年度 学校法人アルウィン学園 事業報告

ひとりひとりを大切にしたい そしてその育ちを支えたい その思いがアルウィン学園の教育の原点です

1. 学園概要

設立 大正5年(1916)2月

設置する部門(2部門)

育成部門	玉成保育専門学校	校長	藤岡 郁子
保育部門	こどもの木かけ		
	玉成幼稚園	園長	高橋 かずみ
		副園長	関本 泰子
	野のはな空のとり保育園	園長	佐久本 宏美

学生定員及び在籍生徒・園児数

	定員	在籍数 (R4,5/1)	在籍数 (R5,3月末)
玉成保育専門学校 保育専門課程 保育学科	100名	88名(1年46 2年42)	81名(1年43 2年38)
玉成幼稚園	270名	168名(少44中53長71)	167名(少44中54長69)
野のはな空のとり 保育園	30名	35名(9,12,14)	34名(9,11,14)

教職員数

括弧内は前年度

	専任教員	専任職員	非常勤	パート	派遣職員
法人		4名(4)			
こどもの木かけ	0名(0)				
玉成保育専門学校	4名(5)	2名(2)			
玉成幼稚園	21名(20)		1名(0)	19名(16)	
野のはな空のとり保育園	17名(16)		4名(2)	18名(18)	1名(2)

法人役員・評議員 (R4,4月)

	定員	実人員
理事	8名	7名
監事	2名	2名
評議員	17名	16名

理事長 高橋かずみ
 理事 国分紀之、今関公雄、小倉 昇
 高橋かずみ、藤岡郁子、佐久本宏美、安田淳一
 監事 阿部豊太郎、勝間田清一

評議員 国分紀之、今関公雄、小倉 昇
加藤正克、茂井万里絵、関本泰子、西川 涼、花井 香
渡辺 愛、高橋かずみ、佐久本宏美、藤岡郁子、安田淳一
山本直子、春澤 薫、黒田康子
委嘱医師 森谷泰和（玉成保育専門学校、玉成幼稚園・野のはな空のとり保育園）
薬剤師 三澤全美

*学校法人の経営に伴って発生する賠償責任に対応するため、役員個人に関する補償及び法人に対する補償を内容とした全日本私立幼稚園連合会が取りまとめる役員賠償責任保険（総支払限度額 1 億円）に加入。

2. 事業報告

令和 4 年度運営計画における①基本方針、②運営方針、③教育方針 に基づき、以下のとおり、（1）教育内容の充実 （2）施設・設備等教育環境の充実 に努めた。

（1）教育内容の充実

創立者アルウィン先生の建学の精神に沿い、計画当初の教育方針に従い、各部門ともに本学園の特色を生かした教育に努めた。

【アルウィン学園】

- ① 学園（保育専門学校・保育センター）の教育・保育理念、運営方針の確認と実践
理事長（幼稚園長）の長期不在という予想外の事態に対応するため、事業計画に掲げた学園の教育・保育理念、運営方針の確認と実践については検討することができなかった。体制を立て直したうえで、課題を整理し学園の将来に向けた検討を行う。
- ② 教職員にとって働きやすい職場づくりの実施
それぞれの部署において、有給休暇が取りやすいよう工夫するとともに、毎年実施しているストレスチェックに加え、杏林大学 竹林令子助教によるメンタルヘルス研修会を実施した。新型コロナウイルス感染症については、基本的な感染対策を継続することで、対応については教職員も以前より慣れてきたが、引き続き感染対策に留意して保育・教育活動を実施している。
- ③ 学園経営委員会の設置
学園の課題の解決や将来の方向性等について検討するために事業計画に掲げた「学園経営委員会」については、理事・評議員会において検討し、学園の課題を正確に把握し解決方法を検討するのは、実際に学園の保育・教育にあたっている教職員であり、保護者をはじめ、学園に関係する方々からの意見をもとに、学園各部署の運営委員や理事・評議員と連携して検討することとした。
- ④ 学園園庭の継続的な整備と管理
創立 100 周年記念事業で、皆様からの寄附を元を実施した園庭改修については、園庭の砂飛びや雨後のぬかるみ対策も実施したが、その際に実施していなかった入口付

近の保護者が送迎時に自転車を駐車する箇所等の対策工事を実施した。

また、園児が躓いたり滑ったりした際の怪我を減らすため、築山周囲の埋設枕木やレンガを取除き、安全性の向上を図った。

【育成部門】

《玉成保育専門学校》

① 玉成保育専門学校の方針の明文化

玉成保育専門学校のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つのポリシーを職員会議、運営委員会で検討し策定した。既に募集要項やホームページに掲載している。今後は、教職員で理解を深め、学生・保護者・高校などに周知し、学生募集に繋げていきたい。

② 学生の確保と休・退学の防止

学生募集のためのホームページの大幅な見直しはできなかったが、少しずつ高校生が利用しやすいように更新している。また、InstagramやTwitterに定期的に投稿し玉成への興味を持ち続けてもらえるよう努力をしてきた。また、高校訪問、学校説明会も授業の合間をぬって繰り返してきたが、50名の定員を確保することはできなかった。

退学・休学防止として、学則を変更して出席時数を4/5から2/3にしたが、やむを得ない理由を除き、欠席しないよう指導を徹底していきたい。

③ プラクティカルスタディの実施

コロナ禍でもフレンドリーウィークを1日ではあったが実施し、秋からプラクティカルスタディも再開することができた。

幼稚園の運動会には1年生が参加し、良い経験となり学びを深めた。今後も引き続き幼稚園と保育園の協力を得て、学生の実践力と思考力を育てていきたい。

④ 業務削減に向けた効率化

教職員の個々のワークライフバランスを豊かにするために、学校を閉室にしての夏休みや学生が登校していない期間の有給休暇取得を推進してきた。まだ、十分とは言えないが、ペーパーレス化等削減に繋がる方策も検討し、できることから実施している。

【保育部門】

《野のはな空のとり保育園》

① 保育の「可視化」に引続き取り組み、保育の質の向上につなげる

園児一人ひとりのポートフォリオの作成を始めたことで、保育者が「子どもたちの学びをみる視点」を理解できるようになった。毎月、最低1つの学びの物語のエピソードをとらえて具体的に記録し、保護者にも大変喜ばれた。

ドキュメンテーションも継続しており、おたより帳に記載されている子どもの姿と繋がりがあって、可視化による共有が幅広く行われている。

② 保育実践の記述の学びを継続し、保育の質の向上につなげる

「二人称記述」が難しいという声もあるが、単なる三人称的に観察した姿を記録するのではなく、子どもがあそびの中から何を学んでいるのかを写し取れるように学び続けたい。

③ 保育所保育指針と こどもの木かげの基本理念を踏まえた保育を実践する

環境を最重点課題に挙げている基本理念の中から、空間や物的環境のようなハード面の環境だけでなく、ソフト面での重要な要素である人的環境について学びあった。

大人の声の大きさや動きの慌ただしさが子どもに影響することも経験し、その都度OJTで丁寧な保育実践を伝えあってきた。

④ 地域の子育てと、園の保護者に向けた子育て支援にとりくむ

親子ひろばと園庭開放の両方の利用者は、一旦自宅に戻り出直していたが、空き教室を利用して待機できるようにしたことで、利便性を高めることができた。また、保育園パート職員が地域支援事業を兼務することで、地域の子どもたちと保育園の子どもたちの交流の橋渡しの役割を果たすことができた。

園の保護者支援としては、保育参加を全日できるようにした。また運動会に代わる新たな行事を作り、学年を超えた保護者同士の交流ができた。こうした取り組みは、保育園の日常を知っていただき、保育実践への理解を深めていただく良い機会となった。

《 玉成幼稚園 》

① 保育センターこどもの木かげと玉成幼稚園のコンセプトを確認し、現実の保育にどうおろしていくか考え実践していく

玉成幼稚園の教育課程の作成は来年度への課題となった。これまで各学年で行われてきたカリキュラム・活動内容等の会議を学年を超えた会議とし、職員全員で全園児の活動を理解していくよう心がけたが、リーダー会を中心に行事等の計画を行うことが多いことからリーダーの負担が大きく、他の職員との意見交換が図れなかった。

② 教職員の質的向上とワークライフバランスの実現に努める

教職員が一人ひとりの保育の資質を磨き、成長できるように努め、自分になりたい保育者像を考えられるまでには至らなかった。

全職員が問題意識を持ち、日々の保育の充実と行事の計画と実施を行うことで、質的向上を目指したが、リーダーの負担ばかり増え、若手が意見を言えない雰囲気があり、職員間の仕事量のバランスが均等ではなかった。

③ 日常の保育活動のふりかえりを充実することで、保育の質を高める

1学期終了くらいまでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、知見の不安や不足から様々な制限が設けられていた日々であった。感染の変化を把握しながら、適時に子どもたちに経験させたいことを優先して、日々の保育、行事に前向きに取り組んだ。

④ 会議のスリム化を図り、確実な情報共有をおこなう

スリム化を図りたかったが、リーダー中心の会議となり、意見交換というよりは今までのやり方、考え方で進むことが多く、議題を迅速かつ明確に進めることは難しかった。保育や行事の準備に時間がかかり、残業が多かった。

⑤ よりていねいな保護者支援をおこなう

新型コロナウイルス感染症のこと、教職員の休職、退職など幼稚園に対し不安感を抱く保護者に丁寧な説明を行い、園に対しての理解を得られるよう努めた。

日常の保護者とのやりとりの中から、保護者のニーズを捉え、共に考え協力していく取り組みを意識的に行うようにした。

園だよりや懇談会・個人面談、ホームページを通して、保護者に幼稚園の取り組みや子どもの姿を具体的に伝え、理解を深められるよう努めた。

⑥ 個別援助の重要性を意識して、必要なケースカンファレンスの充実を図る

特別に支援の必要な子どもに支援教員をつけ、支援センターとも協力体制をとり、教職員全体でのミーティングを通して、子どもの様子・成長などを情報交換して、保育を実践していった。

必要に応じてケースカンファレンスを行い、その内容や援助のポイントの共有・確認を行い、園全体で子どもの育ちを支えていった。

【地域支援部門】

《 コミュニティラボ にこにこのたね 》

① 地域における乳幼児期の保育・子育ての拠点としての役割を果たしていく

今年度は「ふたつの芽」「園庭開放」「親子ひろば」の3つの事業を行った。

利用人数も増えてきているので、さらに活動を知っていただけるよう、ホームページに掲載すると共に、きょうだい・保育園関係者にはQRコードを使った案内を出し、開始時間までの間、空き教室を利用して待機できるようにした。来年度は利用回数、利用人数を増やしたい。

② さまざまな地域資源とのつながりを持ち、連携して子育て支援活動を継続していく

松庵小地域ネットワーク、杉並要保護児童対策地域協議会、地域の保育施設間の連携・情報共有等の促進を図る中核園との連携は、年々重要性を増している。コロナの状況の推移により、中止していた老人ホームとの交流なども再開させたい。

③ コロナの状況に即して、可能になり次第、中止している事業を順次再開していく

2022年度は現状維持にとどまった。

④ ふたつの芽 親子グループ

5月から開始し、登録者・出席者はA・B・C各グループとも、9組、14組、13組であった。

ベテランのお母さん保育者と現役の幼稚園保育者2名で参加者の子どもや保護者を支えた。特に保護者同士のコミュニティの場となり、よきネットワークを築くことができた。参加者の中から22名が玉成幼稚園へ入園し、ふたつの芽の活動の意義を感じた。

⑤ 親子ひろば

リピーターの方が友人に紹介し、新規利用者につながるケースが多々あった。ポスターを作り、園医の森谷医院の待合室に貼っていただいた。ホームページから検索しにくいという声があり、改善を試みた。

⑥ 健康相談

些細な悩みでも、保育園看護師が丁寧に応えて下さるのがありがたい といつも好評である。

⑦ 離乳食・栄養相談

この相談日を楽しみに親子ひろばを利用する地域の親子はとて多い。新規利用者からは、給食レシピ「むぎのたね」が大変好評である。また、保育園給食の献立表も見せて欲しい、同世代の子どもへの献立の参考にしたい との要望が多くあった。

⑧ 保育園での離乳食試食体験

2022年度は引き続き中止したが、2023年度は再開させる予定。

⑨ 園庭開放

保育園のパート職員が専任スタッフとして、園庭であそぶ地域の親子と保育園の子どもたちとの交流の橋渡しとなり、利用者に喜ばれている。2023年度は幼稚園の子どもたちとの交流をもっと広げていきたい。

⑩ 講座あつまればるた

今年度未実施。

⑪ 妊娠中のお母さんの子育て体験プログラム（出産を控えたご夫婦対象）

今年度未実施。2023年度は再開した。

⑫ 子育て相談ポルタ

申し込みなし。

(2) 施設・設備等教育環境の充実

- ・ 令和4年度中における学園の施設、設備等の教育環境整備を以下のとおり実施した。
施設面では、冬季に園庭に霜が降りた後に泥濘化する箇所の土壌を改善するとともに、園児が滑ったり、躓いたりして怪我をすることを少なくするため、埋設枕木やレンガを取り除く園庭改修工事を実施した。

[学園共通]

- ・ 修繕 園庭改修工事（水捌け・砂飛び防止、枕木・レンガ撤去他）4,199,000 円

[専門学校]

- ・ 修繕 教室黒板ホワイトボード化工事 411,400 円、教室音響装置修繕 132,000 円他

[幼稚園]

- ・ 修繕 屋上プール周囲養生クッション貼付け他 124,800 円、えほんの入口シャッター修理 28,930 円 他

[保育園]

- ・ 備品 エバテムブロック 170,000 円、保育支援用 PC 4 台 598,400 円他
- ・ 修繕 外壁 LED 照明 258,445 円、保育室教具等補修 147,350 円他

[法人]

- ・ 修繕 キュービクル鼠侵入防止ネット取付 66,550 円 他

学校法人アルウィン学園役員並びに評議員（令和4年度）

理事（定数：8名 欠員1名 任期：2021年1月1日～2025年10月31日）

	役職	氏名	選任条項	備考	
1	理事長	高橋かずみ	第6条第2項	理事総数の過半数の議決により選任する	1名
1	理事	藤岡 郁子	第7条第1項第1号	この法人の設置する玉成保育専門学校の校長	1名
2	理事	欠員	第7条第1項第2号	評議員のうちから評議員会において選任した者	5名
3	理事	高橋かずみ			
4	理事	佐久本宏美			
5	理事	安田 淳一			
6	理事	国分 紀之	第7条第1項第3号	学識経験者及び功労者の中から理事会において選任した者	2名
7	理事	今関 公雄			
8	理事	小倉 昇			

監事（定数：2名 欠員0名 任期：2021年1月1日～2025年10月31日）

1	監事	阿部豊太郎	第8条第1項	理事会において選出した候補者の中から、評議員会の同意を得て、理事長が選任する	2名
2	監事	勝間田清一			

評議員（定数：17名 欠員1名 任期：2020年1月1日～2023年10月31日）

1	評議員	藤岡 郁子	第24条第1項第1号	この法人の設置する玉成保育専門学校の校長	1名
2	評議員	欠員	第24条第1項第2号	この法人の職員で理事会において推せんされた者の中から、評議員会において選任した者	8名
3	評議員	高橋かずみ			
4	評議員	佐久本宏美			
5	評議員	関本 恭子			
6	評議員	安田 淳一			
7	評議員	春澤 薫			
8	評議員	山本 直子			
9	評議員	黒田 康子	第24条第1項第3号	この法人の設置する学校及び幼稚園を卒業した者で、年齢25年以上の者の中から、理事会において選任した者	3名
10	評議員	国分 紀之			
11	評議員	西川 涼			
12	評議員	渡辺 愛	第24条第1項第4号	評議員会において選任された理事以外の理事	2名
13	評議員	今関 公雄			
14	評議員	小倉 昇	第24条第1項第5号	この法人に関係のある学識経験者及び功労者の中から、理事会において選任した者	3名
15	評議員	加藤 正克			
16	評議員	花井 香			
17	評議員	茂井万里絵			

3. 財務の概要

(1) 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

	2020年度	2021年度	2022年度
固定資産	783,320,946	771,037,016	757,376,565
流動資産	233,809,696	247,119,933	249,523,886
資産の部合計	1,017,130,642	1,018,156,949	1,006,900,451
固定負債	108,972	0	0
流動負債	68,727,875	64,212,119	57,878,360
負債の部合計	68,836,847	64,212,119	57,878,360
基本金	900,712,570	902,033,337	895,346,618
繰越収支差額	47,581,225	51,911,493	53,675,473
純資産の部合計	948,293,795	953,944,830	949,022,091
負債及び純資産の部合計	1,017,130,642	1,018,156,949	1,006,900,451

イ) 財務比率の経年比較

	2020年度	2021年度	2022年度
特定資産構成比率 特定資産/総資産	40.9%	41.6%	42.1%
純資産構成比率 純資産/(負債+純資産)	93.2%	93.7%	94.3%
繰越収支差額構成比率 繰越収支差額/(負債+純資産)	4.7%	5.1%	5.3%
積立率 *1 運用資産/要積立額	121.1%	121.4%	118.5%

*1 積立率 = (特定資産+有価証券+現金・預金) / (退職給与引当金+2号基本金+3号基本金+減価償却累計額)

(2) 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

	2020年度	2021年度	2022年度
学生生徒納付金収入	171,716,000	164,089,500	143,939,000
手数料収入	1,585,450	1,279,500	1,143,550
寄付金収入	0	0	0
補助金収入	224,398,034	229,194,670	240,812,486
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	22,869,480	25,874,730	26,757,956
受取利息・配当金収入	43,712	11,306	12,055
雑収入	25,097,706	25,221,997	23,891,397
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	38,898,500	38,481,800	31,965,200
その他の収入	24,468,195	36,095,981	30,921,384

資金収入調整勘定	△81,155,981	△69,819,884	△78,882,584
前年度繰越支払資金	188,495,896	195,516,896	213,787,217
収入の部合計	616,416,992	645,946,496	633,347,661

支出の部	2020年度	2021年度	2022年度
人件費支出	302,340,782	309,653,971	316,420,007
教育研究経費支出	53,604,457	51,439,597	51,388,285
管理経費支出	47,179,114	57,291,132	53,656,944
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	7,716,560	289,000	4,199,000
設備関係支出	1,563,646	1,034,627	996,611
資産運用支出	17,012,873	8,012,924	14,975
その他の支出	15,856,635	26,245,195	26,671,492
資金支出調整勘定	△24,373,971	△21,807,167	△22,655,133
翌年度繰越支払資金	195,516,896	213,787,217	206,655,480
支出の部合計	616,411,992	645,946,496	633,347,661

(3) 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

科 目		2020年度	2021年度	2022年度
教育活動収支	事業活動収入の部			
	学生生徒等納付金	171,716,000	164,089,500	142,939,000
	手数料	1,585,450	1,279,500	1,143,550
	寄付金	0	0	0
	経常費等補助金	223,651,034	228,513,700	240,812,486
	付随事業収入	22,869,480	25,874,730	26,757,956
	雑収入	25,097,706	25,221,997	23,891,397
	教育活動収入計	444,919,670	444,979,427	435,544,389
	事業活動支出の部			
	人件費	302,340,782	309,653,971	316,420,007
	教育研究経費	69,237,107	66,321,887	63,769,653
	管理経費	54,709,703	64,044,810	60,289,523
	徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	426,287,592	440,020,668	440,479,183	
教育活動収支差額	18,632,078	4,958,759	△4,934,794	
教育活	事業活動収入の部			
	受取利息・配当金	43,712	11,306	12,055
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	43,712	11,306	12,055

動 外 収 支	事業活動支出の部			
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	43,712	11,306	12,055
経常収支差額		18,675,790	4,970,065	△4,922,739
特 別 収 支	事業活動収入の部			
	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	747,000	680,970	0
	特別収入計	747,000	680,970	0
	事業活動支出の部			
	資産処分差額	25,178	0	0
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	25,178	0	0
	特別収支差額	721,822	680,970	0
	基本金組入前当年度収支差額		19,397,612	5,651,035
基本金組入額合計		0	△1,320,767	0
当年度収支差額		19,397,612	4,330,268	△4,922,739
前年度繰越収支差額		22,412,413	47,581,225	51,911,493
基本金取崩額		5,771,200	0	6,686,719
翌年度繰越収支差額		47,581,225	51,911,493	53,675,473

(参考)

事業活動収入計	445,710,382	445,671,703	435,556,444
事業活動支出計	426,312,770	440,020,668	440,479,183

イ) 財務比率の経年比較

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
人件費比率 人件費/経常収入	67.8%	69.6%	72.6%
教育研究経費比率 教育研究経費/経常収入	15.6%	14.9%	14.6%
学生生徒等納付金比率 学生生徒等納付金/経常収入	38.6%	36.8%	32.8%
補助金比率 補助金/事業活動収入	50.3%	51.4%	55.3%
経常補助金比率 教育活動収支の補助金/経常収入	50.3%	51.4%	55.3%
経常収支差額比率 経常収支差額/経常収入	4.2%	1.1%	△1.1%
教育活動収支差額比率 教育活動収支差額/教育活動収入計	4.2%	1.1%	△1.1%